The Holy Place - the souce of Ganga & Mt.Shivling

ガンジス源流域 聖山シブリンを目指して

文 橋本 恵（東京本社） 写真 西遊旅行

聖山と崇められるシブリン（6,543m）。急登を越え、眼前に現れたその姿は、その場に赴いた者を労い包み込むような神秘的な雰囲気を纏っていました。

ガンジス川とその「始まり」

聖なる大河・ガンジス川。世界中の誰もが知る川であり、その存在感は「インド」という国名と並ぶに近いものがあります。ガンジス川は、ヒマラヤの南からインド亜大陸をゆっくり横断し最後はベンガル湾へと注ぐ全長約2525㎞の大河です。流域には古代より文明が栄え、仏教が興り、川は人々の暮らしとともにありました。ヒンドゥー教においてはガンガーと呼ばれ神格化されています。

そんなガンジス川の最源流部。常人にはとても立ち入ることができない奥地にあるかと思いきや、その「始まり」の場所はテント2泊のトレッキングで訪れることができます。氷河の末端部から流れ出る「最初の一滴」を拝むべく、最源流部のゴウムク、そしてその傍に構える名峰シブリン（6543m）のベースキャンプへは多くの巡礼者やサドゥー（修行者）が足を運びます。

聖山シブリンのベースキャンプへ

シブリンはヒンドゥー教3大神シヴァのモチーフであるリンガの名を冠した聖山です。ベースキャンプへのトレッキングのスタート地点となるガンゴートリーの街は、「ガンガー降下」の逸話の舞台でもあるヒンドゥー教ヒマラヤ4大聖地のひとつです。狭いエリアに安宿とちょっとしたバザールが広がり、その奥にはガンゴートリー寺院が建っています。そしてその横にはやがてガンジス川と名前を変えるバギラティー川が流れます。ここを出発し、テント2泊でシブリンBCを目指します。

ルートは巡礼路になっているため歩きやすいのですが、途中バギラティ川を交差する必要があります。そのポイントは河川の氾濫や土砂崩れで変わりやすく、年によって川を人力のロープウェイで渡ったり、氷河を横断することになります。私がシブリンBCを訪れた際は、氷河を横断し急なガレ場を登って行ったのですが、雪解け水が斜面から流れる箇所を跨いだり、両手を使って登る箇所もあり、ガイドに助けられつつゆっくりと進んでいく具合でした。

「仙境」タポバンに広がる別天地

道中は背後に流れるバギラティ川の濁音に全身を覆われ、その音量は私の添乗員としての声掛けが全く届かないほど。濁流、そして爆音の川音は、自然のスケールの大きさを感じさせました。必死に急登を終えたその先に突然現れたのは…だだっ広い平原。そして先ほどまで聞こえていたバギラティ川の濁音がぴたっと止み、突然の静寂。あまりに静かで、一瞬「ここはどこ?」と頭が追い付かないほどです。そして奥に視線をやると、そこにはシブリン峰が。あまりに美しい山体と神秘的ともいえる雰囲気に圧倒されるばかりでした。標高6543m。その鋭角に聳えるシブリンの美しい山容は、インドのマッターホルンと呼ばれています。シブリン峰の真下に広がる草原地帯のタポバンは、アマルガンガーという名の小川が流れ、まるで別天地。周囲にはメルーやバギラティ、カルチャクンドなどのガルワール・ヒマラヤの名峰が連なり、まさに「仙境」と呼ぶにふさわしい場所です。

自分の足でしか辿り着くことのできない、シブリンBC。ここでの滞在時間は、本当に特別なひとときです。ぜひご自身の目で見て、体感してみてください。

シヴァ神

ヒンドゥー教の神話

ガンガー降下

聖人アガスティアの悪魔退治によって地球から失われてしまった水。苦行者バギラティは再び水を地球に与えてくれるようにと神に祈り、苦行に励みました。それを見た神々は、当時天の川だったガンガー(ガンジス川) を地球に下ろすことを計画します。バギラティはガンガーが降りてきた際の衝撃から地球を守り受け止める役目をシヴァ神に頼むべく、更に厳しい苦行を重ねます。やがてシヴァ神も彼の願いを聞きいれます。そしてガンガー降下の日、シヴァ神はその長い髪の毛で一旦ガンガーを受け止め、それからゆっくりと地球に下ろすことに成功したのでした。

左／女神ガンガーの伝説が残る聖地ガンゴートリー
右／道中出会ったサドゥー

左／ガンジス最初の一滴が流れ落ちるとされるゴウムクの氷河
右／ベースキャンプに現れたマウンテンゴート